

6-2 マルクス＝エンゲルスの歴史観の結論

「けっきょくのところ、これまで述べてきた歴史観から、なおつぎの結論が得られる。1. 生産諸力の発展においてある段階に達すると、生産諸力と交通手段は既存の諸関係のもとでは、ただざわいのもととなるだけで、もはや生産諸力ではなくて破壊力(機械装置と貨幣)となる——そしてこのことと関連して、社会のあらゆる重荷をになわされながらいかなる利益にもあずからず、社会から迫害され他のあらゆる階級と決定的に対立せざるをえない一階級が呼びだされる。この階級は全社会成員の大多数を構成する階級であり、そしてこの階級から根本的革命的必然性の意識、共産主義的意識が出てくる。この階級の地位を見てとることができれば、この意識が他の諸階級のうちにも形成されうるのは勿論である。2. 一定の生産諸力は一定の諸条件のわく内でしか用いられえないのであるが、この諸条件は社会の或る一定の階級の支配の諸条件であり、この階級の所有から生じる、この階級の社会的な力は、そのときどきの国家形態のうちに**実践的・観念論的**に表現されるのであり、それゆえにどの革命的闘争も、これまで支配してきた一つの階級にほこ先を向ける。3. あらゆる従来革命においては、活動のあり方には一指もふれられないままで、ただこの活動の分配を変えること、労働を他の人々に新しく分配することが問題とされたのにたいし、共産主義革命は従来活動の**あり方**を槍玉にあげ、**労働**を取り除き、そしてあらゆる階級の支配を階級そのものとともに廃止する。なぜならこの革命を成就する階級は、社会のなかでもはや階級という意味をもたず、階級とは認められず、すでに今日の社会の内部でのあらゆる階級、あらゆる国籍等々の解体の表現であるからである。そして、4. この共産主義的意識の大量産出のためにも、また事柄そのものの成就のためにも、人間の大衆的な変化が必要なのであって、このような変化はただなんらかの実践的運動、なんらかの**革命**のなかでのみ行われうる。したがって革命が必要なのは、**支配階級**を倒すにはそれ以外に方法がないからというだけではなく、また**倒すほう**の階級はただ革命のなかでのみ古い垢をわが身から一掃して、社会を新しくつくりうる力量を身につけるようになるからである。」※この続きが「6-3」です。

④-[10]P63上2～65上7 (マルクス・エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』)